今ゖ 朝さ 広島が爆撃され、ひろしま ばくげき 市内はほとんど全滅、 死傷者多数発生し大混乱」

という広島被爆の情報が、 岡山支店の五十嵐支店長の耳に入ったのは、おかやましてんがいからししてんちょう。みみはい 当日の

正午頃であった。 しかし、このような情報では、広島支店の安否は全くわかいのいし、このような情報では、広島支店の安否は全くわか

らない。広島との通信は朝方突然に不通となったまま、既に数時間途絶していいるのは、このでは、このでは、このでは、こので、まで、まで、まで、までのよいかんとぜつ

ಠ್ಠ 五十嵐支店長は急使の派遣を決意し、川崎政三が任命された。いがらししてんちょう きゅうし はけん けつい かわさきせいぞう にんめい 川崎が夜九時かれなる じ

発の軍用列車に使乗し、広島の一つ手前の向洋駅に到着したのは翌日の午前はつ くんようれっしゃ しじょう ひろしま ひと てまえ むかいなだえき とうちゃく

三時頃で、そこから支店まで徒歩でたどりついたのは、朝五時半頃であった。

はんじじる

高山営業課長は、 川崎から聞いて、自分が船舶司令部に依頼した近隣店へのかわなき

連絡が届いていないことを知り、川崎にその報告連絡方を依頼した。川崎は、れたらく、とど

鉄道電話の通じている海田市駅(向洋駅の一つ岡山寄り)へすぐ引き返し、てつどうでんや つう かいたいちえき むかいなだえき ひと おかやまょ

電話の借用を申し込んだが、通話が輻輳していて五時間ばかり待たされたあと、でんね、しゃくよう、もう、こ

漸く正午頃、「支店長、調査役は相当重傷にて当分指揮困難なるも生命にようや しょうご ごろ してんちょう ちょうさゃく そうとうじゅうしょう とうぶんし きこんなん せいめい

別 状なし.....」という被災第一報を、岡山駅へ送ることができた。これが五十嵐ペコじょう

岡山支店長に伝えられ、直ちに本店へ連絡された。この報を受けた本店首脳部の

まかやましてんちょう った ほんてんしゅのうぶ

大災害である。急遽、人命重視の総務部長電信が、各支店長あてに打電された。だいさいがい 

前橋支店五日夜、空襲ニヨリ営業所・役宅・寮舎全焼、金庫無事ノ見込。まえばししてんいつかよる くうしゅう えいぎょうしょ ゃくたく りょうしゃぜんしょう きんこぶじ みこみ

宿直員中脇田、 刀根、滝沢、高野四名死亡。広島支店六日朝、少 数機ノ来 襲とね たきざわ たかのよんめいしぼう ひろしましてんむいかあさ しょうすうき らいしゅう

二ヨリ営業所半壊。大田次長行方不明、 ままたじちょうゆくえふめい 支店長、中尾調査役重傷、 重 其他傷者

多数 ノ 見込。 <sup>たすう</sup> みこみ 敵ノ都市空襲ノ方法最近頓二酷烈ヲ加エ来レル実情ニ鑑ミ、てき と し くうしゅう ほうほうさいきんとみ こくれつ くわ きた じつじょう かんが

営業所金庫ノ防衛二当リテモ人命尊 重ヲ特ニ考慮セラレ、ホเフѯょうしょきんこ(ぼうえい) あた じんめいそんちょう とく こうりょ

適当ナル時期二避難スルヨウ御指導相成度。依命電報ス。総務部長」七日の夕方、てきとう じょ ひなん こしどうあいなると いめいでんぽう そうむぶちょう なのか ゆうがた

財務局の斡旋により、吉川支店長、大田次長、中尾調査役等は専売局診療所へざいむきょく あっせん よしかわしてんちょう おおたじちょう なかおちょうさやくとう せんばいきょくしんりょうじょ

移された。 なお、この日、 岡山支店では、広島支店の惨状が伝わると、五十嵐 まかやましてん ひろしましてん さんじょう った いがらし

支店長が直ちに岡山医大に出向き、外科医二名の広島出 張 方を要請、快諾を得してんちょう ただ あかやまいだい でむ げかいにめい ひろしましゅっちょうがた ようせい かいだく え

たので、 夕刻六時の列車で、医師を伴い広島へ急行した。五十嵐岡山支店長のゅうこくろくじ れっしゃ いし ともな ひろしま きゅうこう いがらしまかやましてんちょう

一行が向洋駅に到着したのは、いっこう むかいなだえき とうちゃく 七日の夜半であった。 向洋から先は、 広島 ま

で徒歩で行かねばならなかった。一行は、深夜の街道を一列になって進んで行っと ほうじょう しんや かいどう いちれつ しゅしょ

だんだん市内に近づくにつれて、光景はいよいよ悲惨であった。 道端には

死体が散乱しており、多数の負傷者が倒れていた。 目標のない焦土の街で、何度したい さんらん にすう ふしょうしゃ たお まくひょう しょうど まち なんど

も道に迷いながら、やっと八日午前二時に、広島支店に到着した。五十嵐岡山のまで、ままりまして、 とうちゃく いがらしまかやま

支店長は、 朝まで支店で休んだあと、 医師二名を同伴して、吉川支店長の収容い しにめい どうはん よしかわしてんちょう しゅうよう

されている専売局診療所を訪ねた。

せんばいきょくしんりょうじょ たず 吉川は暑いので、芝生に横になって休んょしかり、きつ

でいたが、五十嵐の顔を見ると、手を取り、 涙を流して喜んだ。 医師の準備

吉川の頭に突き刺さっているガラスの破片を摘出することとなったが、ょしかり あたま っしょ

麻酔薬がなかったので、手術中五十嵐は、吉川の身体が動かぬよう羽交い締めますいやく

にして抱きしめていた。長さ六センチ余りのガラス片が取り出され、傷口を三針でして抱きしめていた。長さ六センチ余りのガラス片が取り出され、傷口を三針

縫って手術は無事終了。そのあと大田次長、中尾調査役もそれぞれガラスのぬ しゅじゅつ ぶ じ しゅうりょう ぉぉぉ たじちょう なかぉ ちょうさゃく

破片を摘出され、ょんなのである。 一応の手当が終わった。この日の朝、いちょうであて、お 重傷の女子職員本田

美保子が、怪我人を収容していた地下金庫前の廊下でついに息を引取った。##ニ ゖがにん しゅうよう ちかきんこまえ ろうか いき ひきと

宿 直 室入口近くの通路に積み重なっていた壁土やコンクリートの破片しゅくちょくしつにりぐちちか つうろ つ かさ かくつち

の下から、 秦博、外和田今一の遺体が発見された。はたひろし、そとわだいまかず、いたい、はっけん 一方、この八日、いっぽう 支店営業場

に取引先の市中銀行を集め、 午前十時半から共同で営業を開始した。店内に
こぜんじゅうじはん きょうどう えいぎょう かいし てんない

収容されていた負傷者も、五十嵐支店長が岡山から同行した医師により、やっしゅうよう

と治療らしい治療を受けることができた。八日夕刻には、吉川支店長が専売局は50ょう すりょう う せんばいきょく

診療所から帰店した。その後十一日までに、本店(木下常雄、内田環、大野嘉造)、しんりょうじょ きてん さいゅういちにち ほんてん きのしたつねぉ うちだたまき おおのよしぞう

大阪(引地光治、 山本芳三)、神戸(植田喜一)、門司(平山俊郎、傭員一名)やまもとよしぞう こうべ うえだきいち もじ ひらやまとしろう よういんいちめい

の各店から来援があり、店内にも漸く生色がよみがえった。